

ご挨拶

会長 大谷 寛(高 25)

中京支部会員の皆さまにおかれましては、お元気でお過ごしのことと御慶び申し上げます。早いもので、支部会長に就任し、今年で3年目を迎えます。昨年度は天草での行事の参加も多く、とりわけ、初めて(自分のこどもの卒業式にも出席したことがないのに)在校生の卒業式と同窓会入会式に出席しました。卒業式とはいえ、1名の欠席者もなく凜とした雰囲気の中で行われる行事のひとつひとつを感動しながら見てきました。120周年の時も驚きましたが、学生の質が私達の頃とは違うのかなと思った次第で、昨今の学生への認識を新たにさせられました。

昨年中京支部のスローガンとして【役に立つ同窓会】を上げました。今年掲げるテーマは、【多くの仲間と語ろう】です。これから中京支部は東海三県だけでなく、静岡、長野、福井、石川、富山を含んだ地区へも声を掛け、また最近地区総会へ参加されていない方への声掛けも行っていきたいと思っています。

現在、天草高校同窓生は日本全国にいて、唯一青森県だけ会員がいないということだそうです。という事は、必ず一県に一人は天高生がいるということです。頼もしいと思います。その中で、中京支部は今年で結成 37 年目を迎えます。各支部の中では一番古い歴史を持つ支部ですが、残念ながら出席者数は年々減少しています。どうしたものか、このままではいけないと危機感を持ち、今回最新のデータを取り込んで卒業生名簿を刷新しました。皆さんの中には、今回初めて案内状を受け取られた方もいらっしゃるでしょう。案内状発送の後、役員総出で電話をかけお話をすると、近くに同級生が数名居ることを知って驚かれる方もありました。また、中京支部の存在自体も知らない方も大勢いらっしゃいました。

モノ作り王国と呼ばれるこの地域、きっと天草高校の卒業生が多くいらっしゃると思います。その卒業生をどうやって見つけてそして連絡を取り合い、総会に参加してもらうか、また若い人たちが集まりやすい環境をどう作るか等々、問題山積です。しかし、これから、過去の悪い歴史を改善し会の運営等様々工夫して、中京支部に若い新たな会員が増える様、また、総会に来たくなるような会の運営にとりくんでいきたいと思います。

一月程前ですが、今年も東海熊本県人会に参加してきました。一昨年は、熊本地震直後で義援金を募り、去年は蒲島知事の講演、今年は副知事と「くまモン」が来て大盛況でした。熊本全体では、熊本地震からの復興がなかなか進まない等の話がありましたが、天草では、崎津の世界遺産登録勧告、新1号橋の開通の話題が上がりました。会の最後に天草高校同様、ハイヤ節を踊るのですが、県人会のハイヤ節は私達のいつものハイヤ節と違い、踊りながらも【なんか違う！】と私達天草人は騒いでいました。楽しい会でした。

これからは、県人会はじめ他の天草関係諸団体と交流し、“多くの仲間”と語り合いたいと思います。天草高校中京支部の更なる発展のため、今後とも皆さんのご協力をお願いいたします。



松島方から 1 号橋を見る

更に強力な同窓会活動の展開を！

天草高校同窓会 図南会会長 安田 公寛

例年だと花吹雪の中行われる入学式ですが、天草も今年は桜の開花が早かったことから、爽やかな新緑が新入生 266 名を迎えました。今、夢と希望に胸を膨らませた彼等の入学で、キャンパス内には新鮮な風が流れています。5 月には体育祭も盛大に行われ、中間考査も無事終了して、体育会系のクラブは、インターハイで県内の各学校と練習の成果を競い合っているようです。

さて、不肖、私も歴史ある図南会会長を拝命して以来あっという間に 1 年が経過致しました。この間、私は全国各地の図南会の総会に参加して多くの皆さまと親しく交流し、様々なご意見やご提案を頂いて参りました。

そして現在、各地区図南会の抱えておられる共通の課題が会員の高齢化と参加会員数の減少傾向であり、その対策の為に役員の方々が様々な努力をされている姿を目の当たりにして来ました。ここ中京地区でも会長様をはじめ役員の皆さんが努力されている姿に頭が下がります。先般も地区のエリア(範囲)を東海、北陸まで拡大したいとの意欲をお聞きしたところですが、私たちも積極的に応援したいと考えています。

そもそも図南会はその会則に謳われているように「会員相互の親睦と融和を深め、母校の発展に寄与すること」を目的として創られた団体で、今では全国に延べ 3 万人を超える会員を有する県内でも屈指の同窓会です。今日まで私たちの先輩方は愛校心を發揮して、いろいろな学校整備事業や素晴らしい教育支援事業等を行ってこられました。これは、ひとえに会員の皆さまが毎年納めて頂いている年会費や寄付金が原資になっていることは言うに及びません。従って会費を納めて下さる会員の減少は大きな問題であり、各地区図南会の課題に留まらず同窓会全体の課題として捉え、その克服の為にどうすれば良いかを真剣に考えなければならない時期に来ていると思います。

後 30 年で 21 世紀も折り返し点にさしかかります。その頃日本国を支え指導的立場にいるのは間違いなく今の高校生世代であることを念頭において、私は更に強力な同窓会活動を展開しなければと決意を新たにしています。



AMX AMAKUSA AIRLINES

そおだ、天草へ飛行機で行こう！

- ・天草⇄福岡 1日3便 住民割引で¥11,500~
- ・天草⇄熊本 1日1便 同上 ¥6,200~
- ・熊本⇄大阪(伊丹) 1日1便 ¥9,800~



着任のごあいさつ

熊本県立天草高等学校長 平田 浩一 (宮地岳出身)

中京支部の皆様方におかれましては、御清祥にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、私こと、この度の定期異動で、天草高等学校長を拝命しました。私自身、第 31 回卒で、母校に奉職することができ、このうえない喜びと身の引き締まる思いです。微力ながら、郷土に誇りを持ち、郷土を担う、天草の人づくりに取り組んでいきたいと考えておりますので、今後ともご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。



現在、全日制は各学年 6 学級、全校生徒 700 名程度で、卒業生の約 3 分の 1 が現役で国公立大学に合格しており、地域拠点校としての役割を果たしています。また、部活動では、昨年は、女子弓道部(団体)や男子ソフトボール部、女子ソフトテニス部(個人)や男女陸上部(個人)、男子水泳部(個人)、科学部が九州大会に出場するとともに、吹奏楽部(個人)は見事文部科学大臣賞(日本一)を獲得するなどの活躍をみせました。

定時制は、バドミントンや剣道競技で全国定時制通信制体育大会の出場を果たしたほか、昼過ぎから自主的に勉強会を続けた結果、4 年生大学へ 4 名が進学を遂げました。さらにこの春は、前年の倍増となる 12 名の新入生を迎え、天草における大切な学びと成長の場として、今後さらなる躍進が期待されるところです。

また、昨年度本校は、文部科学省から「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」の指定を受け、「**サイエンスの宝島『天草』から世界へ**」を合い言葉に、「地域の豊かな自然環境の中で多様な能力を身に付け、世界に飛躍する科学技術人材の育成」を研究開発課題とし、種々の取組をスタートさせました。今後更にこの取組を進化させ、生徒の自己実現、進路実現にも繋げたいと思っています。

結びに、中京支部の益々の発展を祈念申し上げ、着任のあいさつとさせていただきます。



Petit Amande

2-45 DAICHISHINMACHI
IWAKURA AICHI
TEL 0587-66-7021
www.petit-amande.com

天高同窓会「図南会」

熊本県立天草高等学校同窓会

お問い合わせは同窓会事務局まで

〒863-0003
熊本県天草市本渡町本渡557番地
TEL/FAX: 0969-24-3533(何時でも可)
開館日: 毎週火曜日(10:00~16:00)
Eメール: tonankai@spice.ocn.ne.jp
ホームページ: <http://amatakadokosokai.com/>

仲良くしましょう」

関西図南会(通称：あまたか関西) 会長 山中 良三郎(高 18 回卒)

中京図南会 37 回総会、誠におめでとうございます

私、昨年 7 月より関西図南会(略称：あまたか関西)会長を仰せつかっております山中良三郎です。以前に貴 30 回記念総会の時、一度参加させていただきました。いつも感じておりますのは、中京さんは暖かい家族的な雰囲気で先輩方を大事になされているな～、と感心しております。

昨年秋には中京さんのお世話で、長野県白樺湖の「池の平ホテル」で念願の第 2 回三地区(関東・中京・関西)交流会をお世話頂き、益々三地区の親睦の輪が深まったようです。ありがとうございました。

貴会も会長以下役員さんが若返られ熱気を感じます。当方もやや若返りましたが「気分は天草高校時代に戻ろう」と役員会ではいつも話し合っております。(平均年齢は 70 歳です。)

関西図南会では、天草地区の高校(天草工業高・天草水産高)同窓会との親睦、を進めており、又明治 29 年創立時の済々黌・兄弟分黌(鹿本高校・八代高校)との親睦も図ろうということで、この 3 月末に初めて懇親会を実施しました。37 歳から 86 歳の 21 名の参加で皆さんとても元気いっぱい盛会でした。とにかく最も信じられる地縁・学縁を、歳を重ねるごとに大事にしましょう。と語り合っています。

何はさておき、我々図南三地区仲間はある意味親戚である。とも感じております。私は五和町手野のみかん農家の三男坊で、あの時代食べるために大阪に出稼ぎに参りました。中京図南会員皆様と仲良くさせて頂きたいです。どうかよろしくお願いします。

6 月 17 日「ルブラ王山」でお会いするのを楽しみにしております。



中京地区との出会い

関東あまたか会会長 松尾和幸(高 16 回生)

中京図南会の皆様、関東あまたか会の松尾です。貴会の会報誌「飛翔」へ寄稿するのも 7 回目になりました。今回は、会の話とは異なりますが、中京地区と私との出会いについてお話させていただきます。

最初の出会：昭和 30 年代は、中京地区へ同級生が集団就職していました。昭和 36 年 3 月、苓北中学校卒業と同時に親しい仲間 4 名が尾張旭市旭前の旭精機工業株式会社(当時は旭大隈工業株式会社)へ集団就職しました。平成 5 年に、私が同会社を訪問した際にその話をしましたら、会社に、32 年経ったいまでも、当時の寮生名簿の中に、同級生の名前が残されていたことに驚きました。それが縁という訳ではありませんが、更に 22 年経った今でも、その会社の現社長とは親しくお付き合いさせていただいています。また、昭和 39 年 3 月、天高の同級生は、岐阜の紡績工場へ集団就職しました。あの頃の集団就職先は、中京地区が多かったことを覚えています。

2 つ目の出会い：中京地区は防衛産業のメッカです。三菱重工業・川崎重工業・三菱自動車・豊和工業・旭精機工業など集中しています。それらの工場見学視察へ何度か出かけました。自衛隊退職後は、弾薬製造メーカーの日油株式会社へ勤め、8 年間、知多半島に所在する日油武豊工場へ何度も出張していました。

従いまして、「中京」と聞くと何故かとても身近に感じます。今後も「中京」の仲間としてお付き合いいくださるようお願い申し上げます。



○出席します

※文書表現、卒業年度表記は原文のまま

- ・小山康志さん(高 26)：ホームページの運営をしています。「天草高校同窓会中京支部」で検索して下さい。皆さん、健康でお過ごし下さい。
- ・加藤邦子さん(高 15)：いつもお世話様です。今年も楽しみにしています。
- ・菅田博幸さん(高 10)：第 1 回卒金子泰孝先輩が出席されるかどうか、又、22 回卒の中村浩三氏も出席か確認したい。出来れば 10 回卒の多数の参加望む。→AKB 関連で宿が取れず、「欠席」
- ・金子洋子さん(高 33)：いつも、ご連絡ありがとうございます。当日を楽しみにしています。
- ・佐古恵子さん(高 26)：参加して下さる方が増えますように皆で頑張っていきましょう。
- ・吉田和美さん(高 17)：ことしも素晴らしい天高同窓会中京支部総会・懇親会が近まりました。本部・各支部のみなさんで集えることを楽しみにしています。
- ・原田登さん(高 12)：2 年前の今日(4/16)、14 日に続いて熊本地震本震があった日です。そのことを忘れないためにも出席します。
- ・諸井龍一郎さん(高 12)：当日、受付ぐらいのお手伝いします。準備、ご苦労様です。

○欠席します

- ・有馬峰雄さん(高 13)：約 7 年ぶりに案内状が届き驚いています。名古屋まで出かける意欲も無いので欠席させて下さい。支部の益々の繁栄を祈っております。
- ・鈴谷政城さん(高 15)：相変わらず体調不良のため通院加療中です。同窓会も新体制のもと益々発展され頼もしい限りです。心より応援しております。皆様によろしく。
- ・濱勝海さん(高 12)：第 3 日曜日は定例の行事があり出席できません。
- ・森山訓光さん(S39)：持病があり体力に自信がないので残念ですがすみません。
- ・河上古美枝さん(高 14)：いつも連絡ありがとうございます。後期高齢者となりまして、あちこちガタがきて医者通いばかりしております。“天草”の二文字は切り離せません。皆様お元気で。
- ・辻田一成さん(高 19)：いつもご連絡ありがとうございます。まだまだ現役で働かなければならない事情がありなかなか出席出来なくて申し訳ありません。皆様に宜しくお伝え下さい。
- ・伊藤福代さん(S34)：天高の同窓会が活発であり続けていることを誇りに思います。
- ・井戸武洋さん(高 16)：お世話になります。5 月上旬、主人共々天草に移住することになりました。皆様にはたくさんの思い出を頂き、ありがとうございました。感謝しております。この名古屋の地にいつまでも天草の灯を灯し続けて下さい。
- ・後藤陽子さん(高 12)出席できませんので、今後、中京支部総会懇親会の案内は不要です。幹事の方々、お世話様です。
- ・梶原次郎さん(S20)：高齢の為同窓会は退会させて頂きます。長い間お世話になりました。
- ・石井国久さん：昭和 10 年生まれです。父は車イス生活になり外出が困難になってきました。参加できず申し訳ありません。(息子さんより)
- ・佐藤守さん(高 1)：ご案内頂き有難うございました。残念ですが足腰に老神がとりついて外出不能となりました。元気で出席していた頃、大谷会長殿には大変お世話になりました。宜しくご鳳声下さい。懐かしいです。当日の盛会をお祈りします。(ご鳳声下さい=他人を敬って、言葉を伝えることをいう)
- ・藤下克也さん(S58)：天草に帰郷しました。天草市河浦町宮野河内 9 番地
- ・榊原時子さん(S46)：当日都合付かず申し訳ありません。
- ・池田スミ子さん(高 27)：毎度お手数おかけ致します。申し訳ございません。
- ・清水一男さん(S37)：遠方になりますので今後の案内を辞退致します。皆様のご多幸をお祈りしております。
- ・明瀬常利さん(定 15)：主人は 4 年前より病気、外出不能。同窓会連絡は不要です。今までもお手紙だけ頂いて返事も出さずいました。申し訳勝手を言って済みません。

- ・小島庄太郎さん(高 6)：小生、従前より関東あまたか会でお世話になっておりますので、ご了解下さい。中京支部の益々のご発展をお祈り申し上げます。
- ・松田喜志代さん(高女 30)：昨年の 11 月に家の中で転倒してから益々歩行が困難になり、外出が難しくなりました。会の盛会を祈っております。(代筆：息子 松田光司)
- ・中村ひとみさん(高 26)：盛会でありますように。
- ・近藤優子さん(高 19)：7 月に二女の第 2 子出産を控え出席できませんが、会の成功をお祈りしています。天草では 6 月 9 日に「古希同窓会」が開催予定です。どちらも出席出来なくて残念です。
- ・吉浦千鶴さん(高 17)：大阪在住の吉浦です。この度はせっかくご案内を頂きましたが体調が悪く欠席させていただきます。申し訳ございません。吉田和美さんによりしくお伝え下さい。
- ・大塚學さん(高 16)：地域の常会の常会長になり都合がつかみませんので欠席ですみません。
- ・葦原設二さん(高 12)：ご盛会を御祈り致します。
- ・小浦堅一郎さん(中 32)：小生、高齢・体調不良の為、残念ながら出席できません。会の発展と皆様の御健勝をお祈り申し上げます。
- ・金子泰孝さん(高 1)：昨年 11 月に腕を骨折し、それから体調不良が続き年賀状等失礼いたしました。皆様にお逢いすることを楽しみにしていましたが残念です。皆様の健康と会の盛会を祈ります。
- ・渡辺瞬子さん(高 29)：仕事と家族の都合が悪く欠席です。いつもご案内頂いてありがとうございます。弟の見舞いで里帰りの都度熊本城をみては心が痛みます。復興が 1 日も早く進む様祈るばかりです。
- ・後藤訓子さん(高 13)：ご案内ありがとうございます。残念ですが、最近体調が悪いため失礼させていただきます。申し訳ありません。
- ・久昭子さん、高木浩美さん(高 13)：住所が変わりました。
〒462-0034 名古屋市北区天道町 1-30-1 メイツ黒川 306。欠席致します。
- ・北野忠男さん(高 14)：市卓球大会の為、出席できません。元気で頑張っております。
- ・向亮一さん(高 15)：今回、体調不良の為、欠席します。皆様によりしくお伝え下さい。
- ・佐々木宣人さん(高 16)：2 年前の 9 月から足が少し弱くなり申し訳ないです。
- ・宮崎逸子さん(高 11)：いつもお世話になります。体調不良の為、欠席します。皆様によりしくお伝えくださいませ。
- ・橋口高義さん(高 5)、橋口登代美さん(高 6)：盛会をお祈りします。

○物故者はがき連絡計報(謹んでお悔やみ申し上げます)

中村 云之良さん(高 4)、江崎 忠治さん(高 10)、濱田偉さん(中 34)、藤沢周徳さん(中 37)
金澤孝一さん(中 38)、幸田佐恵さん(高女 25)、中村云之良さん(高 4)、菊池美代子さん(高 5)
江崎忠治さん(高 10)、小結由美子さん(高 11)、佐々田絹子さん(高 18)

年会費納入のお礼とお知らせ

当中京支部の運営は、年会費及び広告掲載のご協力による収入の恩恵に寄っています。中京支部の運営をより円滑にするためにも、尚一層のご協力をお願いいたします。学年同窓会や家族の話題、会に対するご意見など受け付けますので、下記へ話をお寄せください。

宛先：中京支部会事務局 福田 和幸 〒467-0006 名古屋市瑞穂区御蓼町 3-22

TEL：FAX：052-851-1725・携帯：090-3566-3445・Mail: bp0ewvbt@tg.commufa.jp

中京支部ホームページ：http://amachu.iinaa.net

ゆうちょ払い込み（一般銀行からの振り込みもできます 店＝089、当座＝0135978）

口座記号番号：00810-2-135978・加入者名：熊本県立天草高等学校同窓会中京支部

第 2 回 天草高校同窓会 3 支部交流会

「話そまい 語ろまい」 — 先輩との縁を感じて — 開催報告

事務局次長 小山康志 (高 26 回卒)

平成 29 年 9 月 23 日(土)、24 日(日)天高同窓会の関西、関東、中京の三支部の第 2 回目となる交流会が、信州白樺湖畔の「白樺リゾート 池の平ホテル」で開催されました。今回は関西 4 名・関東 14 名・中京 7 名の総勢 25 名の参加(男性が 13 名、女性が 12 名)でした。今回は、私たち中京支部が幹事支部となり、企画・運営を進めました。交流会のイベントを時系列でご報告します。

(1) 会場への移動

関西支部は、新幹線で名古屋へ来て中京支部と合流し、ホテルの送迎バスで池の平へ向かいました。関東は、新宿より同様に送迎バスで向かいました。車中では修学旅行みたいで、会話が弾みました。が…、当日、秋の行楽シーズンと重なり、高速道路が渋滞し到着が大幅に遅れ、特に、関東の方が到着した頃にはレストランが閉まってしまい、昼食が食べられない事態になりました。しかし、ホテルにお願いし特別のカレーを出していただき、ことなきを得ました。



(2) 矢島静子先輩(高女 29 回卒)の墓参



遅めの昼食後、一昨年亡くなられた「池の平ホテル」を創業された矢島静子先輩の、ホテルの近辺にある墓参に矢島社長(静子さんの孫で東大を首席で卒業されたとのこと)のご案内で、向かいました。墓参者の代表で、藤江さんが追悼文を朗読されました。「静子さんが、下浦小学校の教師をされていた時の生徒だった」とか思い出話を披露され、皆さん感動されていました。

(3) 3 支部交流会(懇親会)

ホテルに戻り温泉で汗を流したあと、今回のメインである交流会が開始されました。

ホテル側のご厚意でカラオケ三昧・プロ歌手・オペラ専攻・歌謡舞踏の踊り手・首椅子踊りも登場し、会場は大盛り上がりとなりました。懇親会の余韻は治まらず、同じくホテルでご用意いただいたカラオケルームに移動し、2 次会がスタートし深夜まで続きました。各支部の幹部の方は、2 次会を途中で中座し、中京支部会長の部屋で深夜 2:30 まで、同窓会の問題点・解決策などについて、熱心に議論を重ねていただきました。幹部の皆様お疲れ様でした。



(4) 白樺湖周辺観光



翌日は、朝食のあと、(1)白樺湖周辺の散策(2)オプションルバスツアー(北八ヶ岳の「苔の森」散策)の 2 グループに分かれて、行動し、(1)では、黄金アカシアが見事な白樺湖畔の散策、リフトに乗ればフクロウの森など。整備された遊歩道を歩けば、遊歩道や影絵美術館など秋の休日を満喫しました。最後は、白樺湖を 1 周して、昼食場所に戻りました。

(5) 帰路へ

レストハウスで昼食のあと、名残り惜しい中、午後 3 時に名古屋方面と東京方面に分かれたバスが発。帰りも高速渋滞に巻き込まれ、バス到着時刻が予定より大幅に遅れ、皆様、自宅に到着されたのは、夜遅くになったようです。お疲れ様でした。

(6) 最後に

今後の 3 支部交流会は、2 年に 1 回開催し、場所は、予算の都合もあり「池之平ホテル」で開催することが決まり、次回は、2019 年 9 月に、関東あまたか会が幹事支部として実施されます。中京支部の皆様の積極的なご参加をお願いします。

最後に、今回の企画・準備・運営を行っていただきました中京支部の大谷会長をはじめとした役員の皆様に、心より御礼申し上げます。

参加いただきました皆様ありがとうございました。また、元気に白樺湖で会いましょう。

※3 支部交流会の詳細な写真等を掲載したスライドショーや矢島静子さんの苦労の半生を紹介したビデオを「天草高校同窓会中京支部ホームページ」に掲載しておりますので、ご覧ください。

はじめまして

金子 洋子(高 33)

昨年、初めてこの会に参加させていただきました。

正直なところ、毎年お誘いをいただくたびに、少し気にはなりつつも何となくですが自分のような若輩者が出席するような場ではないような気がして、結局毎年『欠席』の返信。

ところが、昨年は大谷会長より直接お電話をいただき同級生にも声をかけると“一緒なら心強いね”と三人で参加することに・・・もちろん初対面の方がほとんどでしたが「天高出身」という共通点だけで、あんなにも違和感なく居心地良く座っていられたことに自分でもびっくり・・・そして自分ももうけっこういい歳になっていたことに改めて気が付きました。(笑)

これを機に、これからは自分のためにも、自分の生きてきた軌跡をもう少し丁寧に振り返りながら繋がっているご縁を大切にしていきたいなと思います。

文末ながら・・・名古屋市南区氷室町(名鉄「道德駅」西)にて親子三人ではり灸マッサージの治療院をしています。お疲れの方はぜひ一度お越しください。お待ちいたしております!!

はじめまして 2

近藤 紀代(高 25)

中京支部同窓会には、現会長の大谷さんと同級生だったご縁で出席させていただくようになりました。当地には誘い合って行ける友人も無く、初めは心細く思っておりましたが、無用の心配で、会員の皆さまに温かく迎えていただきました。

愛知県民となって 30 余年、外から見れば天草の慣習は異文化であろうと思いますし、ここ東海地方の文化もまた、独特なものがあります。何かと戸惑うこともありましたが、支部総会で面倒見の良い先人の方々にお会いして、今では中京支部の在ることを心強く思えるようになりました。

とは申しまして、役員のご依頼を頂いた時は、何と言って辞退しようか、という気持ちが先立ちましたが、このような素敵な同窓会を受け継いでいくことが、お世話になった先輩の皆さまへの感謝のしるしになるのではないかなと思うに至りました。

人々の孤立化が深まる時代にあって、同じ天草高校で学んだ縁を大切に、大谷会長の掲げる「役に立つ同窓会」創りに、非力ながらお手伝いをさせていただけたらと思います。

皆さまのご指導とご支援を引き続きよろしくお願い申し上げます。

＜特別付録＞潜伏キリシタン(世界遺産「崎津」の豆知識)



朝もやの崎津集落

※ランドマークの「崎津教会」は、生活の場であるため立ち入りは制限されています。

一般的な呼称である「**隠れキリシタン**」は、江戸時代、1613 年(慶長 17 年)に江戸幕府が禁教令を布告してキリスト教を弾圧した後も、密かに信仰を続けた信者のことである。以下の 2 つに分けられ、①強制改宗により仏教を信仰していると思わせかけ、キリスト教(カトリック)を偽装棄教した信者を「**潜伏キリシタン**」、②1873 年(明治 6 年)に禁教令が解かれ潜伏する必要がなくなっても、江戸時代の秘教形態を守り、カトリック教会に戻らない信者を、学術的には、「**カクレキリシタン**」(カタカナ表記)と呼ぶ。

天草下島南部は、室町時代より豪族の天草氏が領有し、1566 年に**天草久種**が南蛮貿易目的でルイス・デ・アルメイダに布教を許し、自身も洗礼を受けジョアンを名乗った。1569 年には教会堂も建てられた。崎津は一般的ルートではないが遣唐使船が寄港するなど古くからの良港で、ルイス・フロイスの『日本史』には「Saxinoccu(サキノツ)」の記述があり、西洋にも知られていた。その後、キリシタン大名の**小西行長**が天草を含む肥後南部を支配することになり、豊臣秀吉の 1587 年バテレン追放令後も宣教師を庇護している。

禁教令後は、キリシタンは潜伏化し、1621 年頃にはコンフラリア(=組・講)が密かに組織された。1629 年には アントニオ・ジャノネ神父が崎津で潜伏布教を行った。1637 年の**島原・天草の乱**によって天草は荒廃したが、崎津を含む下天草の人々は参戦しなかったことで、処罰されずに済んだ。**崎津は外界と隔絶**していたため、天草の乱自体を知らなかった。乱後に天草は天領となる。

キリシタンは表向き仏教徒を装うようになった。かつては海路しか交通手段がなかったこともあり、隠れ住むのに適した地の利であった。崎津でも長崎各地の潜伏キリシタン同様オラショ(=祈り)を唱えるなどしたが、特徴的なのは、ロザリオやメダイ(=メダル)、クルスとともにアワビやタイラギなどの**貝殻を聖具**としたことにある。また、聖具を秘蔵して「**納戸神**」として祀ったり、キリスト教伝来当時にならったやり方で生まれた子に洗礼を授けたりなどして信仰を守り続けた。1651 年に建立された崎津諏訪神社へ詣でる際には、「あんめんりうす(=アーメン デウス)」と唱えていた。また、崎津の潜伏キリシタンは踏み絵(=絵踏み)を拒絶せず、嫌疑を払拭した。実際には足の裏に紙を貼り直接聖像に触れないよう配慮したり、踏んだ足を洗いその水を飲むことで、罪の許しを乞うゆるしの秘跡にしたりしたという伝承もある。

現在では日本国憲法第 19 条および日本国憲法第 20 条により法的にも信教の自由が保証されているため、定義上、潜伏キリシタンは現存しない。

崎津は、明治後半から天草炭田の操業に伴い人や物資の往来が増え、長崎航路が就航したことから船宿・料亭・映画館などができ、下天草随一の賑わいを見せた。さらに昭和 40 年代には漁法の近代化や漁船の大型化により、漁業(ちりめんじゃこ漁)の最盛期を迎えた。

崎津集落は崎津港の西岸、金比羅山を中心とする岬の東裾野にあり、旧国道(サンセットライン)の 700m 程の区間に密集する集落。山側は家屋が一軒毎に連なり、反対側は最長でも 50m ほど、最短 10m 弱で海に出てしまう。家屋の大半は 10 坪前後しかない。集落の景観を特徴づけるのは、狭い土地で暮らす知恵から生み出された海に突き出た平均幅 5m 四方の「**カケ**(掛け)」というテラス状の木組足場と、密集した家屋の間をすり抜ける幅 1m 弱の「**トウヤ**(=背戸屋)」という細い路路である。カケは船の係留や漁具の手入れ・干物干しなどに使われる。トウヤを抜けると海やカケに出る。現在、カケは 19 基、トウヤは約 40 本。どちらも現役で使われており、活きた民俗文化財であり稼働遺産である。

いつも前面に出るランドマークの**崎津教会**(天主堂)だが、昭和 2 年に赴任してきたフランス人司祭のハルブ神父(1864~1943)の希望で、かつて踏み絵が行われた庄屋宅(吉田家)跡に鉄川与助によって昭和 9 年に現在の崎津教会が建立された。ゴシック様式の三廊式平屋で、リブ・ヴォールト天井構造に切妻屋根瓦葺き。正面の尖塔・拝廊と手前二間は鉄筋コンクリート製だが、予算の都合で祭壇を含めた奥三間は木造建築になっている。コンクリート部分の外壁は大正末期~昭和初期に流行したざらつき感のあるドイツ壁(モルタル掃き付け仕上げ)風に仕立てている。室内の壁は漆喰塗りで白く明るく、教会としては珍しい**畳敷き**である。亀浦出身の事務局長は、軍ヶ浦に親戚があり、小学生時代に船で遊びに行くたびに、教会の中で遊んでいた。昔は、開け放しで開放されていた。



教会自体は文化財指定をうけていないため、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の構成資産としては教会単独ではなく、崎津集落内の景観の一部として扱われており、重要文化的景観でも構成要素に含まれていない。献堂式の際の信者は 536 人、現在は 400 人ほどのクリスチャンがいる。歴史上、船が交通手段であったため、大江・崎津・今富は羊角湾を隔てて行政区画を持つ特徴がある。

